

# 下野市立石橋小学校

## 1 学校課題

自分の考えをもち意欲的に学習に取り組む児童の育成  
～主体的・対話的で深い学びの実現をめざして～

## 2 研究計画

### (1) 主題設定の理由

令和3年度から令和5年度までの3年間、国語科の説明文に重点を置いて授業改善に取り組んできた。それから本年度までの2年間は、国語科で培った表現力をもとに、算数でも自分の考えを表現する力の育成を目指した。その結果、①記述問題の平均正答率が比較的高い②主体的な学習に向かう態度には学年差があり、粘り強く、自己調整しながら学習していくことに課題があるという2つの特徴が、全国学力・学習状況調査、とちぎっ子学習状況調査から判明した。これらを踏まえ、自分の考えをもって学習に取り組むことができるという強みを伸ばし、個人個人が生み出した考えを基にして、対話的で深い学びにつなげたいと考えた。しかし、その際、児童が「考えたい」「できるようにになりたい」「友達はどう考えたのだろうか」という思いをもつことができなければ、学習は主体的にはならない。したがって、児童が問いをもつことができるように課題の提示の工夫をし、児童の内発的動機を触発させるような授業を展開することで、主体的に学習に取り組む態度の育成を図ろうと、本主題を設定した。

### (2) 研究の仮説

- ①問いが表出され、意欲を引き出す導入を図れば、児童が主体的に学習に取り組むことができるであろう。
- ②それぞれの学年の各領域における「数学的な見方・考え方」を明らかにし、指導の工夫を図れば、児童一人一人が自分の考えをもち、問題解決に取り組むことができるであろう。

## 3 研究内容

### ①意欲を引き出す導入の工夫

- 児童の「ずれ」を引き出す導入の研究（例）予想との「ずれ」、既習との「ずれ」
- 導入における目標基準（評価基準）の研究
- 導入における既習事項の確認方法の研究
- その他の意欲を引き出す導入の模索

### ②自分の考えをもつことができるようにするための指導の工夫

- 各学年の各領域における「数学的な見方・考え方」の明確化
- 「数学的な見方」の共有の仕方の研究
- 学習形態・時間配分の工夫
- 多様な「数学的な考え方」を引き出す指導の工夫

### ③外部講師の活用を図り（S&Uコラボ事業等）、研修会の充実を図る。

### (2) 研究授業を通じた主題への取組

月日	学年	単元名	課題追究のための手立て等
9/25	5年	算数「平均」	・課題設定の工夫（陸上記録会の選手を選ぶとしたらどちら？） ・話型の提示、交流の設定
11/20	3年	算数「円・球」	・授業導入の工夫（「不公平なゲームの提示」） ・スクールタクトを使用しての表現、他者参照

## 4 本年度の成果と課題

### (1) 研究の成果

- ・児童が自分事と考えられる課題設定の工夫を行うと、主体的な学習につながる。(例:「あなたが監督ならどちらを選手にする?」)
- ・導入では、児童の疑問や問いを算数で解決しようとする発問を行うと、主体的な学習につながる。(例:「ふつうの記録」とはどんな記録だろう?)
- ・二者択一で考えさせると、課題が焦点化される。(例:「極端に失敗した記録は、入れる? 入れない?」)
- ・自分の考えを書くためのテンプレートを提示すると、児童の助けになる。
- ・「ずれ」が生じるような導入(例:不正なゲーム)を行うと、児童から課題を引き出すことができる。
- ・限定的な発問をすると、課題が焦点化される。(例:一番損しているのは誰ですか?)
- ・スクールタクトのメリットは、「表現活動へのハードルが下がる(お試し、やり直しがしやすい)」「他者参照が容易」「材料(今回で言うと、「かご」「人」)を用意することで、余計なタスクに時間や労力を割かなくて済む」
- ・他者参照をONにした場合、スクールタクトだけで評価をとることは危険。一方で、複数の評価材料があれば、スクールタクトも思い切った使い方(序盤での他者参照の許可)が可能。



### (2) 研究の課題

- ・「広める」対話から「深める」対話にしていきたい。考えを共有するだけでなく、観点を与えた上で話し合いをさせることで、学習目標により迫れるように支援したい。
- ・「基本方針」のまだ検証していない部分を積極的に検証していくと、研究が網羅される。
- ・指導案の支援欄に「ファシリテートする」は不適當。指導者の力量に委ねることになり、再現が難しい。次年度は「ファシリテーション」の方法を研究することも考えられる。